

令和5年度 東京都立葛飾野高等学校 学校経営報告

1 今年度の取組目標等に関する自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

【学習指導】

- ① スクールポリシーに基づき、指導と評価の改善を繰り返しながら、生徒にわかる喜びや学ぶ意義、また、入学前より学力が向上したと実感させられる授業の創造に向け、教科会や教科主任会を充実させ、組織的な学習指導に取り組んだ。
- ② 大学進学に向けた学力を身に付けさせるため、「基礎・基本の定着」「発展・応用の充実」の両立を図る指導を実践した。授業評価アンケートでは、多くの生徒が複数の科目において「分かりやすい」「授業に工夫を感じる」と肯定的な評価だった。
- ③ アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業やICT機器を活用した授業実践により、わかる授業を味わわせるとともに、授業動画の配信やteams、Classiの活用により、主体的に学ぼうとする態度と能力の育成を図った。
- ④ 土曜講習、放課後補習（火曜会）、夏期講習を計画的に実施し、生徒の学びに向かう力や学びへの興味と努力し続ける意志を喚起させ、学力の一層の伸長を図った。
- ⑤ 教員相互の授業参観を推奨し、個々の授業力向上に努めた。公開授業研究会、学力分析会、ケース会議等の校内研修会を充実するとともに定期的な教科会を通して教科としての授業力向上を図った。

【生活指導】

- ① いじめ対策防止基本方針に基づき、いじめの実態把握調査を計画的に実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組むことができた。
- ② 卒業後の社会生活を見据えた基本的な生活習慣の確立と挨拶ができる社会人として成長し続けられる能力や態度を育む指導を継続的に行った。
- ③ 服装・頭髪等の身だしなみ指導を地域や家庭の理解を得ながら、当たり前の指導として、適切かつ丁寧に取り組んできた。
- ④ 授業規律の保持・徹底が図れている。教員のチャイム前入室や授業中の不要物を放置させない指導にも取り組めており、清潔かつ落ち着いた学習環境は保障できている。
- ⑤ 2学期以降の遅刻が増えている。また、上級学年になるほどその数も増えている。放課後指導により一部の改善はみられるが家庭の協力を含め、更なる改善が課題である。

【進路指導】

- ① 3年間を見据えた計画的なキャリア教育を進路指導部と学年が協力して実施できた。
- ② 各学年、計画的に保護者会や三者面談を実施し、進路情報の共有を図った。
- ③ 年間5回葛飾野の「模試 Package」として、事前課題、模試実施、事後課題、結果返却、模試分析会、補習のサイクルにより、生徒の学力向上だけでなく希望進路や進路実現に向けての考え方や意欲を醸成することができた。
- ④ 進路指導部と学年が連携し、最後まで「諦めさせない指導」を実践した。大学・短大等進学希望者に対して、面接や小論文、志望の動機に関する指導を全教職員による協力体制で実施した。
- ⑤ 入学年次より、学年集会や個別面談、進路ガイダンスを丁寧にを行い、進路未決定者を生まない意図的・計画的な進路指導を推進した。

【特別活動・部活動】

- ① ホームルーム活動の充実に努め、生徒の学校への帰属意識の醸成に取り組むことができた。
- ② 学校行事や生徒会行事、部活動に主体的に多くの生徒が取り組んだ。
- ③ 体育的行事や部活動を通して、仲間と力を合わせて精一杯努力する姿勢が養われた。
- ④ 地域行事のボランティア、地域清掃、学校説明会等の運営を通して、社会貢献しようとする資質と能力が育成できた。

【健康・安全】

- ① 自転車運転に係る被害者・加害者にさせないため「自転車安全利用五則」の徹底について指導するとともに、感染症対策を講じた上で、交通安全教室を実施した。
- ② スクールカウンセラーによる1年生全員面談やアセスメントテストの実施とその分析、更に生徒情報交換会の開催を通して、生徒一人一人の実態把握に努め、学習不振や学校不適応、いじめの早期発見・早期解決等に生かしてきた。
- ③ 感染症対策ガイドラインに基づき、日常的に徹底した感染症対策を実施し、生徒の健康の保持増進に努めた。
- ④ 保健だよりの発行を通して、生徒や保護者に向けて、感染予防・感染対策についての意識啓発や感染拡大防止に資する協力依頼ができた。

【募集・広報活動】

- ① 校内における学校見学会・説明会のほか、外部での説明会に全教職員が協力的に参加し、募集広報活動を強化した。
- ② 授業公開週間は6月と11月の2回実施した。
- ③ 学校ホームページ・X（旧ツイッター）を通して、随時学校の情報を発信するとともに「葛飾野新聞」を年3回発行し、地域の中学生とその保護者に興味・関心を持ってもらえるよう努めた。

【学校経営・組織体制】

- ① 企画調整会議を中心とした組織的学校経営を推進した。管理運営規程に基づく学校運営の徹底を通して、組織的な業務遂行と諸課題の解決に取り組んだ。
- ② 各種会議の定刻開始と予定時間内終了の徹底、会議等の精選を図るとともに時差勤務、在宅勤務、年休等の取得を推進し、教職員のライフ・ワーク・バランスの実現を目指した。また、業務の効率化と職員間のコミュニケーションを大切にし、職員の心身の健康維持・増進を図った。
- ③ 経営企画室の学校経営参画機能の充実に努めた。予算委員会や業者選定会議を適切に開催し、行政系職員と教員との相互連携が図れた。また、施設・設備の老朽化が顕著なため、定期的な点検と必要に応じた環境整備に取り組んだ。
- ④ 主幹会議は、学校経営上の課題について検討し、解決に向けた方策を立案、進言させることができた。
- ⑤ 服務事故防止研修の実施を通して体罰の根絶はもとより服務事故全般の未然防止を図った。
- ⑥ S I P拠点校として、生徒の理数に関する興味・関心を高めるための講師派遣、探究先進校訪問、書籍購入、施設使用を計画的に実施し、指定校2年目の成果発表会を成功させた。

(2) 今年度の「数値目標」の実績

数値目標	実績
「授業外学習時間一日 60 分以上」習慣確立 55%	26.0%
長期休業日等における補習・講習を 110 講座以上	262 講座
授業力向上及び情報共有に資する校内研修を年 20 回以上実施	21 回
現役四年制大学・短期大学進学率 60%以上	54.9%
進路未決定者（進学準備等を除く）2%以下	0.4%
1 日あたりの遅刻者数 23 人以下	45.7 人
部活動加入率 72%以上	73.1%
学校ホームページ及びX（旧 Twitter）の合計更新回数年間 360 回以上	296 回
学校説明会等来場者数 2100 人以上	2851 人

2 次年度以降の課題と解決に向けた方策

(1) 学習指導

- 課題** ・生徒の学力向上、基礎・基本の徹底と発展・応用の充実
・授業外学習時間の習慣化
- 方策** ・アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善
・授業力向上のための授業研究、校内研修や教員相互の授業参観等を継続
・放課後補習、長期休業日中の補習・講習の充実
・授業動画の配信や teams、Classi 等のデジタル技術活用の推進

(2) 生活指導

- 課題** ・自己指導能力を身に付けさせる生活指導の更なる工夫
・規範意識の醸成と遅刻防止の徹底
・交通安全指導の継続、自転車乗車時のヘルメット着用の推進
- 方策** ・学校の生活指導について家庭の理解と協力を得ながら他者と集団生活を送る上で必要なルール、マナー、モラルを身に付けさせ、確かな自己指導能力を醸成する。
・挨拶の励行、校則の遵守、授業規律の保持・徹底、遅刻指導、身だしなみ指導を継続し、一層の規範意識の醸成と卒業後に求められる社会性を身に付けさせる。
・警察等外部機関との連携を図り、自転車ヘルメットの着用率を向上させる。

(3) 進路指導

- 課題** ・進路指導部主導による指導体制の定着と質的向上
- 方策** ・キャリア教育を核とした進路指導計画と指導実践
・小論文、プレゼンテーション、面接等の組織的な指導
・進路指導部主導による定期的な学力分析会実施の継続
・進路指導部主導により長期休業日中等の補習・講習を他分掌等と連携協力しながら企画・運営
・教職員間の情報共有と協力体制の確立

(4) 特別活動・部活動

- 課題** ・帰属意識の醸成
・集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度の育成
・規律ある行動実践に努めようとする能力や態度の育成
- 方策** ・工夫ある特別活動・部活動の実践
・学校行事や生徒会活動、部活動等に生徒が主体的に取り組み、達成感や自己有用感を味わわせる指導の工夫
・地域のボランティア活動や学校行事等の運営への自発的参加を促す。

(5) 健康・安全

課題 ・日常的な生徒の健康の保持増進

- ・教育相談の充実
- ・交通安全指導の継続、自転車乗車時のヘルメット着用の推進

方策 ・家庭への情報提供や協力依頼を行い、家庭と連携した生徒の健全育成を図る。
・教員間の情報共有及びスクールカウンセラーや外部機関との連携を強化する。
・警察等外部機関との連携を図り、自転車ヘルメットの着用率を向上させる。

(6) 募集・広報活動

課題 ・「学力検査に基づく選抜（第一次募集）」前年度を上回る応募人員の確保

方策 ・全教職員による協力体制で校内外の学校見学会・説明会に参加し、広報活動を行う。
・学校案内、学校ホームページ、X（旧ツイッター）、葛飾野新聞等による情報発信
・近隣区中学校（葛飾区・足立区・江戸川区等）への訪問や郵送等による広報活動

(7) 学校経営・組織体制

課題 ・学校経営計画の具現化

- ・教職員の人材育成及びライフ・ワーク・バランスの推進
- ・担任業務の負担軽減
- ・施設・設備の改善

方策 ・企画調整会議を中心とした学校経営の推進
・ミドルリーダー、若手教員育成の推進
・ライフ・ワーク・バランスの推進に向けた各種取組の推進
・担任と副担任の連携強化
・会議等の効率化とペーパーレス化を図る。
・経営企画室との連携
・施設・設備の定期的な安全点検と学校経営支援センターとの連携